

## 中心市街地でのまちなか型公共サービスの展開 —アオーレ長岡の誕生, 市役所からシティホールプラザへ—

### 1. はじめに

東北支部では、11月に城下町・弘前で大会が開催されました。ここでは、残念ながら城郭は現存していませんがその二の丸跡に市役所を移転（中心市街地に回帰）させた新潟県長岡市の中心市街地でのまちづくりを紹介させていただきます。

### 2. アオーレ長岡の誕生と特徴

平成24年4月1日、中越地震で被災した旧厚生会館と隣接する2つの公園を合わせた跡地にシティーホール「アオーレ長岡」が誕生しました。名称は「会いましょう」という方言で地元の中学生が名付け親です。敷地内には「アリーナ」、「ナカドマ（屋根付き広場）」と「市役所」が程よい距離感で一体化しています。また、バスターミナル・JR上越新幹線等が結節する長岡駅と、雨にも雪にも負けない「ペDESTリアンデッキ」で直結しています。駅から最も近い市役所ではないでしょうか（改札口から徒歩3分）。

平成15年度に中心市街地構造改革会議が提案した「まちなか型公共サービス」の展開が目指され、それが具現化した施設の一つです。設計者は東京大学教授の隈研吾氏で、江尻氏が担当された構造も興味深く、被災地の宮古市で製作されたナカドマの大屋根は圧巻です。また、施設内の案内板などのデザインはNHKの朝ドラ「てっぺん」で有名な森本千絵さんで、施設内には市民と一緒に作成した「アオーレバード」が沢山飛んでいます。大小4つの市民交流ホールも混じり合い、展示会や講演会などが毎日開催されています。市役所も総合窓口でワンストップサービスが行われており、わからないことはコンシェルジュに聞けば何でも教えてもらえます。また議場が1階にありガラス越しに内部を見ることが出来ます。

この施設の特徴はなんといっても「ナカドマ」でしょう。雨雪の影響を受けず、年中24時間市民が利用できる空間となっています。5000人収容のアリーナと一体利用できるのも面白く、成人式やビアガーデンなど多数の催し物が開催されています。オープン後半年が経ちましたが、この間に約88万人の来場がありました。行政視察も引切り無しです。

### 3. フェニックス大手, 市民センターなど

アオーレ長岡から中心市街地を奥の方に進むと、再開発ビル「フェニックス大手」があります。中越地震のアーカイブセンター「きおくみらい」や子育て施設「まちなか絵本館」はわくわくする空間で、上層階には市役所の一部も入居しています。また「ま



図-1 長岡市中心市街地の整備状況(2012.4)

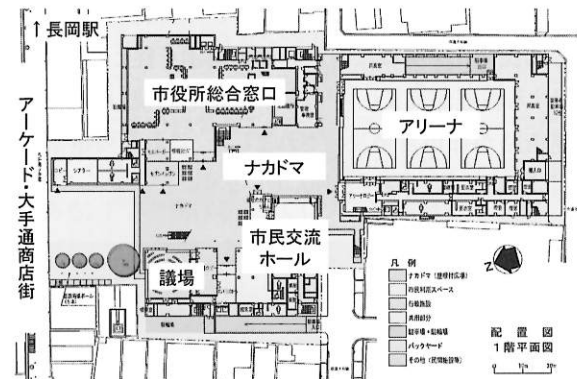


図-2 アオーレ長岡 配置図・1階平面図



写真-1 ナカドマと木漏れ日



写真-2 アイスリンク(アリーナ)

ちなかキャンパス」という面白い空間もあります。市民は無料で使用でき、大変好評です。また、10年前に設置された「ながおか市民センター」も今なお市民に愛されています。「各施設」の詳細はwebで検索してみてください。実際にまちづくりのヒントを探しに長岡にお越しいただければ幸いです。



写真-3 アオーレで遠足

注：図・写真は筆者撮影と長岡市提供資料を一部加工・修正したものです。

(文責・長岡技術科学大学 樋口秀)